

準天頂衛星システム災危通報サービス実証

- ◆ アジア各国政府・国際防災機関関係者との設計検討で得た知見・需要
 - ◆ 100%完璧なシステムでなくても使えるのであればすぐに利用したい
 - ◆ サービスの仕様は？ インタフェース仕様は？ 窓口は？ いつから？ (いつまで？)
 - ◆ 社会インフラが整っていない地域では、平常時の情報配信(天気予報など)も有用



国際防災機関RIMES(バンコク)



ASEAN防災人道支援調整センター(ジャカルタ)

人材育成



国際連携におけるキーパーソン

- ◆ 準天頂衛星システム災危通報サービス実証のための国際連携の例
 - ◆ 友好的・積極的に連携を進めることのできる機関には日本で学んだキーパーソンがいることが多い
- ◆ 相互理解や持続的なヒューマンネットワーク構築のためにも人材育成は有効
 - ◆ 国際連携事業, 関連設備設置運用(電子基準点など), 標準化, 人材交流, 情報収集など

国際防災機関RIMES



東京大学で学位取得

インドネシア大学



慶應義塾大学で学位取得

オランダ航空宇宙技術研究所



東芝→NECに勤務

(人材育成プログラムがきっかけ)²⁰

測位衛星システム人材育成の例：中国

- ◆ MASTA2012人材育成プログラム(2012年9月スタート)
 - ◆ 北京航空航天大学でAPSCO加盟国の学生受け入れ(奨学金支給)
 - ◆ 7ヶ国・20名の学生を受け入れ, ICG WG-Cの枠組みに沿って教育開始
- ◆ China Satellite Navigation Conference を2010年より開始



MASTA2012プログラム

衛星測位国際学会ION-GNSS論文採択数

	日本	中国	台湾	韓国	豪州	計
2010	13	19	13	8	10	285
2011	20	29	12	10	15	305
2012	14	34	14	8	8	338
2013	12	30	8	10	3	305

日本での測位衛星システム関連人材育成

- ◆ UNISEC(大学宇宙工学コンソーシアム)
 - ◆ 衛星/ロケット開発, CanSat, CanSat Leadership Training Program, UNISEC Global
- ◆ GESTISS(宇宙・地理空間技術による革新的ソーシャルサービスコンソーシアム)
 - ◆ G-SPASEプログラム(宇宙インフラ活用人材育成のための大学連携国際教育プログラム)
 - ◆ 宇宙サービスに主眼をおいた英語による教育プログラム・アジア各国大学と連携
 - ◆ 準天頂衛星システム関連企業との緊密な連携(実施中・実施予定)



GESTISS/G-SPASE <http://gestiss.org/>



日本での登録学生は50名程度



主要教員はアジア工科大学教員を兼務



アジア工科大学での講義



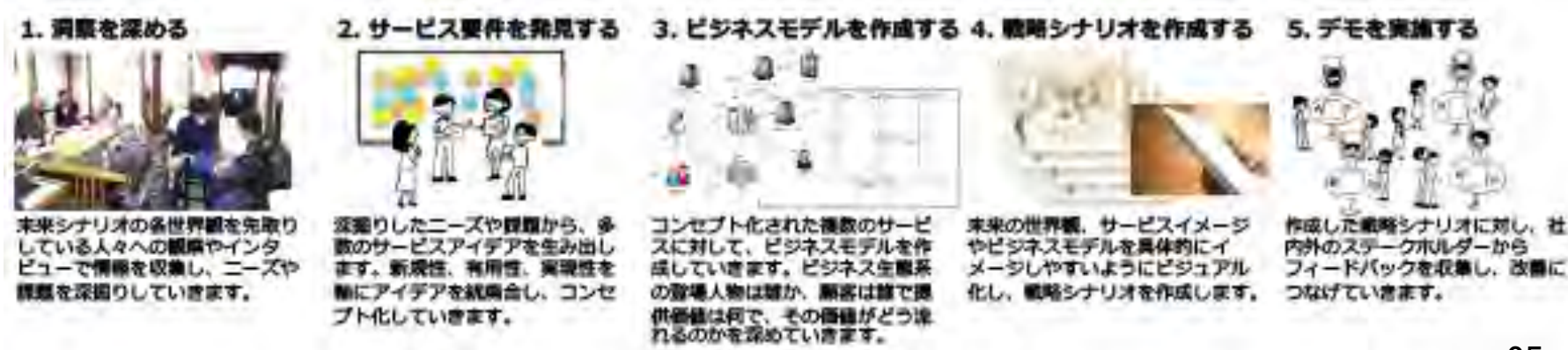
アジアからの学生によるワークショップ

コミュニティ



準天頂衛星システムコミュニティ

- ◆ 多様なステイクホルダ(システム開発者, サービス提供者/利用者など)によるコミュニティの形成, 維持がムーブメント創出や利用活性化には必須
 - ◆ 高精度測位衛星サービス利用促進協議会(QBIC)
 - ◆ 準天頂衛星システム利用者会(QSUS)
- ◆ 今後の戦略
 - ◆ 日本各地にオープン(NPO,自治体など), クローズド(民間企業など)な準天頂衛星システムサービスに関するコミュニティが「自律的」に形成, 維持される仕組み, 環境の整備, 俯瞰力があり戦略/戦術を立案, 推進できるファシリテータの育成が必要
 - ◆ 国内のみならず, 海外においてもコミュニティが形成, 維持されることで, 良いパートナーやカスタマー, 需要の発掘に発展



ファシリテーションプロセスの例

コミュニティ形成，維持のための試み

INTERNATIONAL
SPACE
APPS CHALLENGE



HackaLawson 2013

「ローソンとできるソーシャルチャレンジ」をテーマに、ローソンの各種データやキャラクターを活用したアプリ/サービスをみなさんから広く募集します！

開催日 アイデアソン：2013年8月19日(月)
ハッカソン：2013年8月24日(土)・25日(日)

開催場所 アイデアソン：株式会社ローソン 本社（東京都品川区大崎）
ハッカソン：渋谷ヒカリエ（東京都渋谷区渋谷）

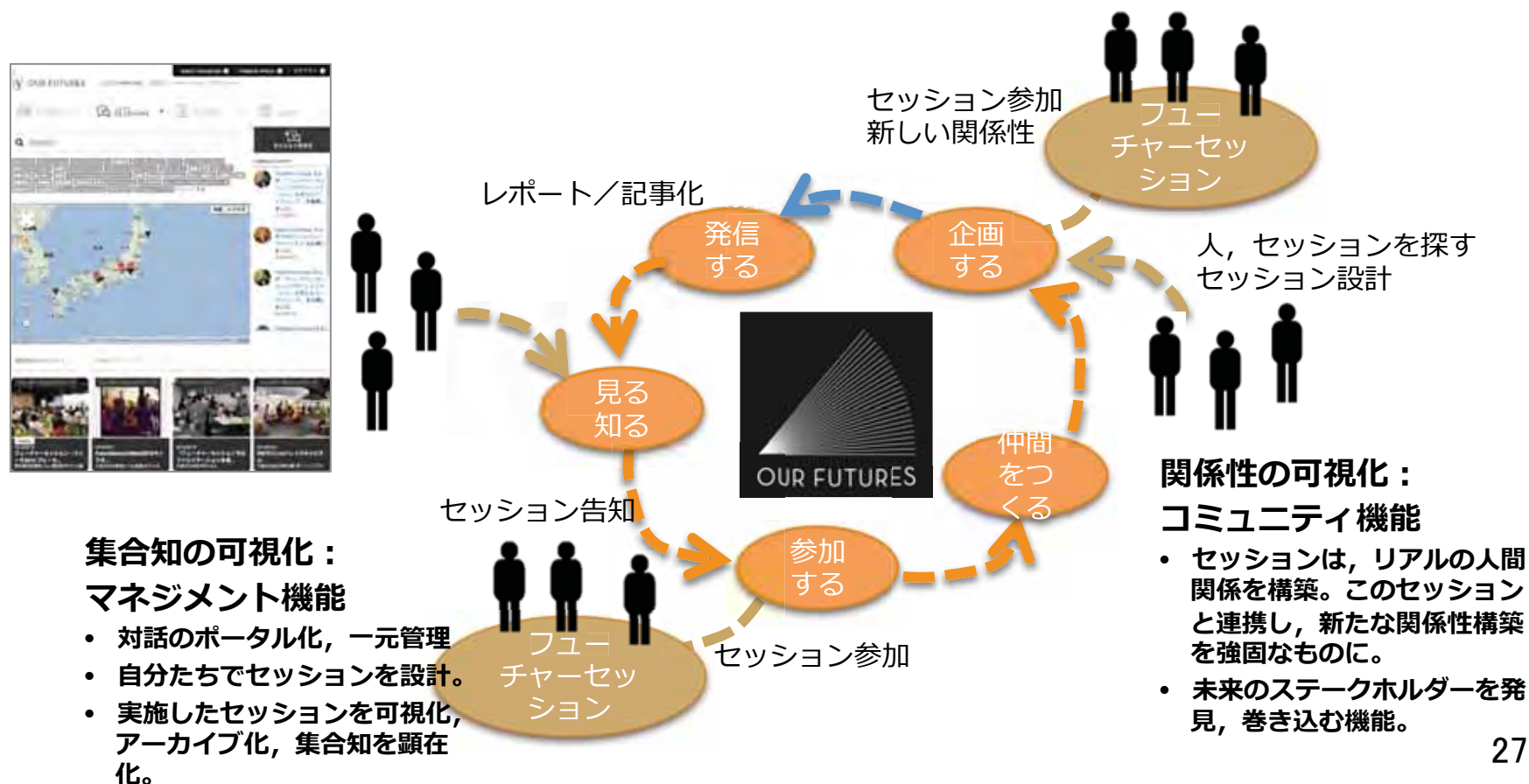
ハッカソンの参加登録はこちら



コミュニティ形成・維持のための仕組みの例

◆ OUR FUTURES プラットフォーム

- ◆ フューチャーセッションを通じて人・知識をつなぎ、未来を共創し、イノベーションを生み出す土壌作りを支援
- ◆ <https://www.ourfutures.net>



まとめ



準天頂衛星システムの利用活性化に向けて

1. 準天頂衛星システムによる「自律性の確保」と「利用拡大」はターゲットユーザも要求も異なることを認識した上でのシステム設計, 開発, 運用
2. 準天頂衛星システムを利用したサービス提供を可能にする普及戦略
 - ◆ 準天頂衛星に対応のGNSS受信機をどのように普及させるか? カーナビから? スマフォから?
 - ◆ 他システムと連携した価値創造(測位システム, 観測・通信放送システム, センサシステム.)
3. 国内需要のみならず, 国外需要も予め取り入れた上でのサービス設計, 開発, 運用
4. エンドユーザ, サービスプロバイダの視点による仕様の明確化
 - ◆ いつ, どこで, 誰が, どのように準天頂衛星システムを利用できるのか?
 - ◆ 4機体制の後の7機体制は, 更新頻度は? いつまで続くのか(どこまで保障)?
5. 測位衛星システムおよびそのサービスでの世界でのリーダーシップをとるための人材育成の仕組み, 組織の設立とその活用
6. 自律的にコミュニティが形成, 維持される仕組みの構築